

The background of the slide features a photograph of a wind turbine on the left and a solar panel array at the bottom, set against a clear blue sky. The right side of the slide is overlaid with a large green shape containing white text.

GX

GREEN TRANSFORMATION

「初めてのGX講座」カリキュラム

GXとは？

「GXは、**2050年のカーボンニュートラル**達成や2030年の国家的な温室効果ガス排出削減目標に向けた取り組みを、経済成長の新たな機会と捉えます。

排出削減と経済社会システム全体を変革するのがいわば『**グリーントランスフォーメーション**』の核心です。」



企業にとっては、**ビジネスの新たな展望**と捉え、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出の削減と同時に**収益アップ**ができる、変革に挑戦する**チャンス**です。



なぜ中小企業もGX？

すでに先進的な企業（大企業）は自らの事業活動の**GX推進**を図るとともに、サステナビリティの指針等を設け、**サプライチェーン上の企業に対してGX対応をするよう要請**し始めています。

中小企業様はサプライチェーンで繋がっているため、先進企業同様に中小企業も**GXへの対応が必要不可欠**になりつつあります。

これは数年後に**自社が選ばれなくなる**という大きな潜在リスクである一方、この脱炭素化の流れを上手に 捉えれば **比較優位・競争力**を生み出す機会に変わることもあるということです。

取り組みば機会に、**取り組まなければ将来のリスクに繋がるのが脱炭素経営の性質です。**

5年後、10年後を見据え、**「選ばれる企業」**になるために**脱炭素経営**への第一歩を始めませんか？



GXに取り組むメリット

エネルギーコストの削減



設備投資や生産プロセス等の改善などによりエネルギー使用量が削減されるため、光熱費や燃料費を抑えることができます。



取引先、売上の拡大



サプライヤーに対して排出削減を求める企業も増加したため、自社や自社製品の訴求力向上につながります。

資金調達において有利に働く



非財務情報の項目も審査の対象になってきておりますので、対応している企業様の方が有利になってきます。

モチベーションや人材獲得力の強化



気候変動に取り組む姿勢を示すことで、社員の信頼や共感を獲得し、社員のモチベーション向上につながります。
また、気候変動問題への関心が高い人材からの共感・評価も得られ、人材獲得力の強化にもつながります。

知名度や認知度の向上



省エネや脱炭素に取り組んで排出削減を達成し対外的にPRすることにより、自社の知名度・認知度の向上につながります。

炭素税の導入によるコストアップ



カーボンプライシングによるビジネスコスト増加

取引先の減少



サプライチェーン上の企業に対してGX対応をするよう要請

GX推進が遅れることで考えられるリスクとは！

投資家、消費者へのイメージ低下



継続的な成長が阻害され事業縮小のリスク

人材確保の難航



企業イメージ低下による採用難

GX推進における「悩み」



どのようにスタートすべきか分からない・・・



GX推進に必要な知識がない・・・



GXのことがわかる人材がない・・・



誰に相談したら良いかわからない・・・



競合は取組んでいるが自社では取組めていない・・・



DI worksの「初めてのGX講座」が解決します！

GX推進の課題を「初めてのGX講座」で解決

中小企業様の

「なにから始めればわからない」

「社内で誰もGXのことを把握していない」

課題を解決できるプログラムになっております。



「初めてのGX講座」は、「GXとは？」から「具体的な実務フロー」までを、
網羅的に学習できるGX人材育成のeラーニングコンテンツでございます。



GX人材育成



GXプロジェクトリーダー育成



GXを活かした「組織の改革」



新たなビジネスチャンス

GX人材育成に最適なオンラインカリキュラム

こんな企業様におすすめです！

➤ 脱炭素に向けて本格的に取り組んでいきたい企業

取引先や金融機関からの要請に応じて、これから担当者に学習させたい企業に適しています。

➤ GX需要を取り込んで企業変革し持続可能な成長を目指していきたい企業

他社との差別化、社内や対外的にアピールしていきたい企業に適しています。

➤ サステナ部署以外のメンバーへGXの浸透を図りたい企業

生産本部やサステナ本部以外のメンバーのGXリテラシーを底上げしたい企業に適しています。



「初めてのGX講座」 カリキュラム講師

DI W★RKS



鷹羽 毅氏

中小企業基盤機構CNアドバイザー

- ・ビジネスプランナー ・産業調査アナリスト ・中小企業アドバイザー
- ・独立行政法人中小企業基盤機構中小企業アドバイザー
- ・MUZINZOU代表

■神戸大学 教育学部卒業

■株式会社富士経済入社

マーケティング本部にて調査・企業業務に従事、エネルギー専門部分を起ち上げ、電池分野の専門調査・企画を展開し、その後、太陽電池、燃料電池、エネルギーシステム全般の調査分野を拡大。

長期・広範囲なエネルギー・エレクトロニクス・新産業分野へも展開



久保 ひろし氏

DI works 合同会社 CEO

■兵庫県出身。

2004年に研修コンサルティング会社創業。

著書2冊「やるからできる」(PHP出版)「夢を叶える授業」(こう書房)

全国約80,000人以上に研修講演の実績。

2015年には社会イノベーションを背景に、新たに環境事業を立ち上げ、『地球応援隊』を結成。

2019年に法人化しDI works合同会社を設立。

省エネ・抗菌抗ウイルス・防災をコンセプトに全国の企業と共創パートナーシップを結び、コンサルティング・ディレクション、社員教育と組織構築の支援を行う。

現在GXのリテラシーの普及に尽力している。

中小企業向け「初めてのG X講座」

～G Xの基礎知識から脱炭素に向けての計画、実施フローまで幅広く学習できる講座～

地球温暖化・気候変動問題に対して世界各国が対策を進めています。日本でも2050年カーボンニュートラル実現を目指し、産業界・企業においてもその対応が求められ、計画・実践が進みつつあります。

しかし各企業において、特に中小企業が実際に何から始めればいいのか、いつから始めればいいのか、どんな方法があるのか、またどんな影響やメリットがあるか・・・など不明な点が多くなかなか取り組めていないのが実情です。

本講座では、**知識編、計画編、実務フロー編**、そして**ビジネスチャンス編の4構成**にて、企業における計画の立て方や実施方法を詳細にわかりやすく解説しております。最初にG Xや脱炭素と言った対策方法の基礎知識を理解し、実際に企業における脱炭素計画の立て方・進め方がわかり、さらに脱炭素を成長戦略に変える方法などを提案し、自社において実際に有効な計画を立案できることが可能となっています。

またこれらの知識・情報は経営・管理者と専門担当者だけではなく社員全員が理解・共有することが最も重要であり、計画成功の要因にもつながります。

今後の企業経営において、**環境・エネルギー対策は最も重要な戦略**の一つになります。その目標として企業における**脱炭素経営、カーボンニュートラル**の実現が求められてきます。同時にその実現は**省エネ・コストダウン・高収益**につながる**経営メリット**につながっています。

社長から社員全員がG X・脱炭素・環境経営・環境事業を理解し、一歩先を行く企業経営を実現できるよう本講座がお力になれば幸いです。講座でお会いできること楽しみにいたしております。



中小企業向け「初めてのGX講座」概要①

DIWORKS

～GXの基礎知識から脱炭素に向けての計画、実施フローまで幅広く学習できる講座～



知識編



約4.5時間

① SDGsとGX：世界の解決課題と脱炭素化のトレンド

世界の課題解決・持続可能な世界の実現のためにSDGsが提唱・実践され、
その中で温暖化・気候変動対策のための環境・エネルギーの転換としてGX化が進んでいる。
世界課題の解決と脱炭素に取り組むための背景と目的を理解する。

キーワード：世界の社会課題解決、SDGs、GX、ESG投資

② 脱炭素・カーボンニュートラルの定義と基本対策

温暖化・気候変動対策の基本である脱炭素・カーボンニュートラルを理解する。
その違いは何か？それぞれの具体的な実践方法、現状課題、今後の方向性を確認し、
計画作成・実践のための基本知識をしっかり習得する。

キーワード：脱炭素、カーボンニュートラル、CO2削減・吸収、排出量計測他

③ 脱炭素に向けた日本と世界の取組・政策動向

脱炭素は世界の共通課題であるが、実際には国別地域別に温暖化の状況と対策は
多様でありカーボンニュートラル実現計画も異なっている。
日本の2050年カーボンニュートラル計画、及び各国の実情と計画実態から世界のトレンド
を理解する。

キーワード：世界のカーボンニュートラル実現計画、脱炭素計画・政策他

④ 気候変動・温室効果ガスの排出実態と予測

温暖化・気候変動の原因となっている7種類の温室効果ガス（GHG）を確認。
ガス別発生源の確認と中心となる二酸化炭素の排出量推移、国別・産業別排出量など
の実態と予測を確認し脱炭素対策のための背景を理解する。

キーワード：温室効果ガス（GHG）、温暖化の原因、排出源、排出割合他



計画編



約2.8時間

⑤ 脱炭素計画作成方法

各企業が実際にカーボンニュートラル実現のために脱炭素計画を立てるためには教育・研
修から始まり世界や日本の規格や政策に対応した計画の作成が求められる。
国際的な認証となるSBTなどの理解と効果的な計画作成方法を理解する。

キーワード：脱炭素計画、TCFD、SBT、GHGプロトコル他

⑥ GX戦略実現のための脱炭素3計画の立て方

企業のカーボンニュートラル実現のためには、「脱炭素教育」「脱炭素経営」「脱炭素事
業」の3計画の作成と実践がポイント。経営と事業のための有効な計画作成は教育に
よる人材育成から始まる。

キーワード：脱炭素教育、脱炭素経営、脱炭素事業、人材育成

⑦ 脱炭素経営計画による脱炭素の実践と企業価値の向上

企業のカーボンニュートラル実現の中心となる「脱炭素経営計画」の目的
と立て方、特にサプライチェーンにおける対策の必要性について確認する。
自社関連事業でCO2排出をゼロにする脱炭素経営計画の徹底研究。

キーワード：脱炭素経営計画、サプライチェーン、スコープ1・2・3



中小企業向け「初めてのGX講座」概要②

DIWORKS



実務フロー編



約4時間

⑧ CO₂排出の計測・見える化の進め方

脱炭素経営計画はCO₂排出量算出と排出源明確化の現状分析から始まる。燃料別・装置別・電力会社別などの具体的な算出方法により、自社での排出実態確認と見える化による継続的な対策方法を明確にする。

キーワード：排出量算出、排出係数、排出源特定、排出サービス・ソフト

⑨ 化石燃料削減・エネルギー転換方法

CO₂排出削減の第1ステップは化石燃料の燃焼を減らすことから始まる。電化装置・機器への転換や省エネタイプへの変更などが主な対策となる。さらにバイオマス・水素・アンモニアなどの燃料転換の可能性もチェック。

キーワード：電動・電化装置、省エネ設備、新燃料、バイオマス、水素

⑩ 省エネ・節電によるエネルギー消費削減の方法

脱炭素の計画において、照明や空調などの省エネ・節電による電力消費量の削減が非常に重要な要素となる。再エネ電力導入が進めやすくなり、最終的にエネルギーコストの削減につながる目に見える有効な対策となる。

キーワード：省エネ・節電、設備導入、運用改善、エネルギーコスト

⑪ 再エネ電力導入・調達による脱炭素の実現

省エネ・節電で削減した電気使用量を再生可能エネルギーによる電気に変えることでCO₂ゼロの脱炭素を完成することができる。その調達方法として太陽光発電の設置や再エネ電気の購入など多様な対策を検証する。

キーワード：再エネ発電電力、自家発電・自家消費、PPA

⑫ オフセット・クレジットによるビジネスモデル創出

どうしても化石燃料の使用が必要でCO₂排出が残る場合に、他の事業者が削減している分を購入して削減分に充てることができるオフセットやクレジットなどの方法がある。カーボンニュートラルを完成する方法を確認。

キーワード：オフセット、クレジット、電力証書



ビジネスチャンス編



約1時間

⑬ 炭素事業計画によるビジネスチャンスの創出方法

CO₂削減の経営計画に出費するばかりではなく、脱炭素関連事業を自社で展開し、新規事業を拡大・創出して収益を上げる脱炭素事業計画を検討すべきである。どの業種・企業にも必ずあるビジネスチャンスを提案。

キーワード：脱炭素事業、環境・エネルギー新事業、ビジネスモデル創出



「初めてのGX講座」



Total：約12.5時間

受講者限定特典：毎月オリジナルテキスト配布

人材開発支援助成金が活用可能！！

中小企業向け「初めてのGX講座」

受講時間

Total：約12.5時間

講座料金

200,000 円（消費税別）/1名

人材開発支援助成金を活用

中小企業75%助成

※大手企業の場合は60%助成となります。

例：中小企業の場合1名150,000円助成されるので、
実質負担50,000円(税別)で受講可能！

今までに100社以上の申請をサポートした弊社が無料サポート！

人材開発支援助成金とは

人材開発支援助成金は、事業内の職業能力開発計画を立て、計画に沿って従業員に職業訓練を実施する事業主等を支援する制度です。

※助成金の受給が確約されるものではありません。

※受講料は経費として計上可能です。



「GXリテラシー」のご紹介

「初めてのGX講座」の前に、GXを理解するための基本知識と方法を覚える

それが「GXリテラシー」

※リテラシーとは、必要な基本知識と実行力

5つの質問の答えを
50のリテラシーで考えていきます

- ① GXとは何のことか
- ② 温暖化の影響と原因は何か
- ③ 温暖化を解決する方法は何か
- ④ 事業を創造する方法は何か
- ⑤ 解決も創造もできるいい方法は

- 受講時間：約2時間
- 受講方法：オンライン受講
- 受講費用：20000円（税別）
- 現在キャンペーン価格 **6000円**（税別）
- 6ヶ月間アフターフォロー実施
- 毎月問題集の配布（6ヵ月間）

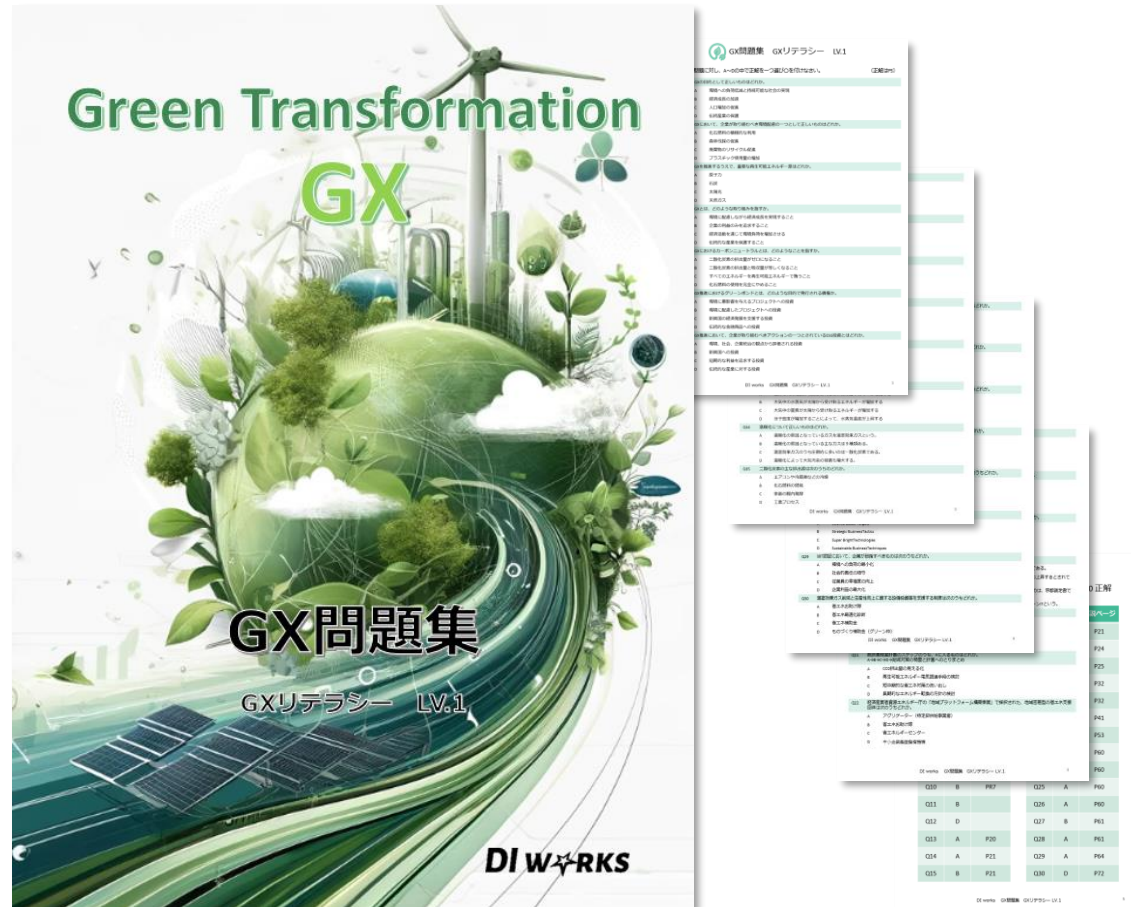
国連のSDGs提唱やコロナ禍の非接触型運営が背景にある中、デジタル化（DX）により生産性向上やコスト削減が進みました。さらなる変革として、日本発のグリーントランスフォーメーション（GX）が注目されています。GXは単なる環境問題の解決だけでなく、ビジネスの革新を促し新規事業を創出する枠組みです。この「GXリテラシー」ではGXの学びを公開講座として提供し、より多くの皆様に新たなリテラシーの向上を図ります。

DI works 合同会社 CEO 久保 ひろし

特典配布「GX問題集」のご紹介

「GXリテラシー」受講者特典 毎月無料配布（6か月間）

DI worksオリジナル制作「GX問題集」



・DIworksオリジナル問題集

一部抜粋



GX問題集 GXリテラシー LV.1

■ 以下の問題に対し、A～Dの中で正解を一つ選び○を付けなさい。

Q1 GXの目的として正しいものはどれか。

- A 環境への負荷低減と持続可能な社会の実現
- B 経済成長の加速
- C 人口増加の促進
- D 伝統産業の保護

Q2 GXにおいて、企業が取り組むべき環境配慮の一つとして正しいものはどれか。

- A 化石燃料の積極的な利用
- B 森林伐採の促進
- C 廃棄物のリサイクル促進
- D プラスチック使用量の増加

Q3 GXを推進するうえで、重要な再生可能エネルギー源はどれか。

- A 原子力
- B 石炭
- C 太陽光
- D 天然ガス

Q4 GXとは、どのような取り組みを指すか。

- A 環境に配慮しながら経済成長を実現すること
- B 企業の利益のみを追求すること
- C 経済活動を通じて環境負荷を増加させる
- D 伝統的な産業を保護すること

「初めてのGX講座」受講成果にコミット

中小企業の経営層、担当者がGXの基礎知識から

カーボンニュートラルに取り組むフローを理解して実行できる。



「初めてのGX講座」カリキュラム受講の流れ

簡単に受講開始が可能！手厚いサポートも！



① 受講申込

オンラインより簡単に
申込が可能！



② 計画申請の手続き

計画申請提出するための
手続きをサポート



③ 受講開始

貴社の担当者様と連携して
効率的な学習を実現



④ 受講完了後受給サポート

受講完了後助成金利用するため
の申請をサポート

－ 安心の実績 －

オンライン研修利用人数 **1,000人以上**

※ 本オンライン研修プログラム以外も含む



未来の先導者へ、GXの力でビジネスを変革せよ！

DI W★RKS

X LEARNING

※Xlearningは株式会社JOAホールディングより提供するeラーニングサービスです。

電話でのお問い合わせ

0739-81-2208

【受付】平日 9:00～17:00

メールでのお問い合わせ

info@diworks.net

会社名・ご担当者氏名・メールアドレス・電話番号を
ご記入の上、お問い合わせください

<https://www.diworks.net>

当社のホームページでも資料請求・お問い合わせができます。資料の郵送も承ります。

オンデマンドで配信！ シンポジウムのご紹介



GX Acceleration Symposium 2024

アクセラレーションシンポジウム

【主催】株式会社 JOAホールディング
【協賛】一般社団法人 国際P2M学会
一般社団法人 日本生産管理学会

最前線で活躍中の第一人者の講演を
オンデマンドでお届け！

無料配信

Green Transformation



特設ページ↓

配信お申し込みは
こちら！



「脱炭素社会実現のGX教育」
に焦点を当て、
産官学の最前線で活躍中の第一人者が、
今、必要なことを伝えます。

★DI worksも参加しております。



経済産業省 産業技術環境局 GX 投資促進室 室長
西田 光宏 氏



環境省 大臣官房 環境経済課 環境金融推進室 室長
稲村 晃希 氏



文部科学省 総合教育政策局 リカレント教育・民間教育振興室 室長
西 明夫 氏



(一社)国際P2M学会 副会長
久保 裕史 氏



(独法)環境再生保全機構 社会実装支援コーディネーター
東京農工大学 名誉教授 / (一社)国際 P2M 学会 会長
亀山 秀雄 氏



青山学院大学 経営学部 教授
玉木 欽也 氏



(公財)イオン環境財団 専務理事
山本 百合子 氏



(公財)地球環境戦略研究機関 上席研究員
松尾 直樹 氏